

成果報告書

団体名

城下町つるの雛まつり展実行委員会

提案書

はじめに

雛まつりは日本全国各地で見られる行事であるが、都留市では4月3日をお節句と称し、昭和50年頃まで各戸で盛大に雛人形を飾り、児童を中心に野山に遊ぶ習慣があった。この習慣は県下でも非常に遅くまで続いているが、都留市は城下町ならではの歴史を持つとされる。

子供の成長を願うこの行事が成り立つ意義は五月節句・七五三・成人式と共に日本繁栄のもととなり、子孫継承を願う民俗行事である。この命の大切さを教える行事を地域で認識し、地域住民の中で子ども達を守り育てていくことを思い返す機会の一助となることを期待したい。

雛まつり展開催に伴う文化交流と学習の場

子供の正しい成長はその両親の深い愛情と地域住民との明るい交流の中で育てられるものである。「明るく育て」という願いが雛人形をつくり情緒あふれる祭りとなって広がるためにこの催しを計画し、準備活動をおこなってきた。一針一針に心をこめて縫い上げる吊るし雛は密度の濃い教育手段と言えるかもしれない。その一つ一つには人生の歩みの中で人間としてやらなければならない大切な教訓がこめられているのである。

今回は地域のためにいろいろな活動をしている仲間や公募に依って自主的に参加した住民たちが同じ目標のもと協力し、それぞれの力量を発揮して取り組んだ。また、ミュージアム都留の職員とも共同して実施することができた。

※グループを作りそれぞれが意見を出し一致協力して責任をまっとうしたのだ！

都留文科大学と地域住民の連携について

今回の雛まつり展の開催に伴う活動においては、故郷からこの地へ来てまだ1年ぐらしかたっていない文大生も参加し、学問のかたわら市民との協働の話し合いの中にその成果を表し、催し中の当番や作品の保護などにも協力していただくことになっている。もとより教員養成大学として発展してきた文大は学

生が全国から集まる。そして開校以来続く「つる子どもまつり」の成果は大きく一大イベントとして定着している。私たちは、それぞれの地方の特長や交流を図るためにも、この一大イベントをとりまとめる実行委員会の会員に参加していただいている。

文大生を参加させることはなかなか難しいことではあるが、知っている学生にどんどんと声をかけ、まずは参加してもらうことが大切である。そして第二の故郷となる都留市の発展に寄与して欲しいと思う。

ミュージアム都留が市民に親しまれるような活用方法、城下町に残る伝統文化を後世に残すための方法について

都留市には、ミュージアム都留をはじめとする立派な歴史施設がありながらその真価になかなか迫れない無念さがある。

私たちが雛まつり展の開催に向けてミュージアム都留を利用し活動した際に感じたこととして、市民が利用・活用しやすい造りにしなければならないと感じた。様々な制約があったり不便な点があった。またイベント実施の際は、人がおもわず入ってみたくなるような親しみやすい雰囲気づくりが必要であると感じた。施設をただつくるだけ、残すだけでは活用されず、伝統文化を継承していく目的も達成されない。

まずは施設の建設時において、そこを利用・活用していく市民の声を聞きながら建設するべきであり、今からでも市民が使いやすいよう改良すべきだと思う。

そして、施設の活用を市民まかせにするのではなく、職員が一緒になって、市民をサポートする体制を整えていかなければならない。ただ物を残すだけでは、伝統文化は後世に継承されていかない。文化は人が伝えていくのである。

雛まつり展実行委員会では、「自分達・・・」という誇りを持ち、学び合いながら活動を行った。祭りとして伝わってきた雛まつりを「飾る」と同時に「つくる」という方向に持っていきたいと思いながら活動した。文化を継承していくためには「飾る」から「つくる」ことが大切な事だと思う。

また、雛まつり展の研修のため静岡県稲取を訪れたが、稲取では展示施設の近傍に子供たちが遊べる広場があり、出店もあり休むことができる。ミュージアム都留においてイベントを開催する際も、商工会や地元の商店と連携し、ミュージアム都留に立ち寄った人達がさらに楽しめ、都留を知ってもらうような

工夫が必要であり、施設も柔軟に利用できるよう改善すべきである。

そもそも都留市にはたくさんの良い店や施設があるが、あちこちの地域に点と点であり、線で結ばれていない。イベントなどでは一か所で楽しめるような工夫が必要だと思う。

今後、雛まつり展としては、エントランスの空間や第二展示室を利用したり、可能であれば外の空間を利用し出店や休憩場所とし、ミュージアム都留にある「お宝」をもっともっと大勢の人に楽しみながら見て頂き、中身のある歴史を未来につなげていきたいと思う。

事業報告

活動内容など	
活動名	「城下町つるの雛まつり展」の開催に伴う文化交流と学習の場の創設
期間	平成 22 年 10 月 20 日～平成 23 年 3 月 31 日
内容	<p>10月23日 第3回事務局会議</p> <p>11月9日 第4回事務局会議</p> <p>11月12日 第2回実行委員会</p> <p>11月26日 第5回事務局会議</p> <p>12月10日 第6回事務局会議</p> <p>1月18日 第3回実行委員会</p> <p>1月26日 第7回研修旅行への準備</p> <p>2月10日 第4回実行委員会</p> <p>2月3日 稲取つる雛展見学会</p> <p>2月22日 第8回事務局会議</p> <p>3月10日 第5回実行委員会</p> <p>3月25日 第9回事務局会議</p> <p>3月23日～3月30日 会場設営班作業 (吊(雛飾り)棚、6基手づくり完成)</p>

※ 活動内容などは、分かる範囲で具体的に記入してください。